

学会発表

標準添加（付加）法における比例式による未知の値 x および SN 比 η の推定

吉岡嘉暁

第 17 回品質工学研究発表大会論文集

理想的な「実地ブランク試料」を行政検査のたびに、測定試料に応じて用意することはなかなか難しい。そこで、測定試料そのものを実地ブランク試料的に利用する「標準添加法」について、濃度測定の基本機能に忠実な「比例式」による扱いで、未知の濃度値 x を推定する「一般公式」と SN 比 η の求め方を誘導した。

平成 20 年度の腸管出血性大腸菌 0157:H7（分離株）の分子疫学的解析結果

末永朱美 宮野高光 花木陽子
国井悦子 毛利好江 石村勝之
池田義文* 笠間良雄 吉岡嘉暁

第12回地域保健研究会（第1分科会）

2009. 6. 1 広島市

平成 20 年度に広島市で発生した腸管出血性大腸菌 0157 感染事例に関して、PFGE, MLVA, IS-printing 法の 3 法で分子疫学的解析を行った。集団、家族内感染事例では全て同タイプに型別できた。疫学的に関連の見られない散発事例において同タイプに型別される株が数株あり、今後より詳細な疫学情報の収集が必要になると考えられた。

*: 退職

広島市で分離された腸管出血性大腸菌 0157:H7 の分子疫学的解析

末永朱美 宮野高光 花木陽子
国井悦子 毛利好江 石村勝之
池田義文* 笠間良雄 吉岡嘉暁

平成 21 年度 日本獣医公衆衛生学会（中国）

2009. 10. 10～11 松江市

平成 20 年度に広島市で発生した腸管出血性大腸菌 0157 感染事例に関して、PFGE, MLVA, IS-printing 法の 3 法で分子疫学的解析を行い、疫学情報と比較検討した。集団、家族内感染事例では全て同タイプに型別できた。疫学的に関連の見られない散発事例において同タイプに型別される株が数株あり、今後より詳細な疫学情報の収集が必要になると考えられた。

*: 退職

腸管出血性大腸菌 0157:H7 の分子疫学的解析法の比較検討

末永朱美 田中寛子 蔵田和正*1
花木陽子 毛利好江 石村勝之
池田義文*2 笠間良雄 吉岡嘉暁

第 30 回日本食品微生物学会

2009. 10. 19～21 東京都

平成 18～20 年度に広島市で発生した腸管出血性大腸菌 0157 感染事例に関して、PFGE, MLVA, IS-printing 法の 3 法で分子疫学的解析を行った。クラスタ解析等を比較すると系統樹では 3 法で矛盾がある部分もあるが、型別は一致した結果が得られた。今後さらなる疫学情報との検討が必要になると考えられた。

*1: 現 環境局施設部施設課

*2: 退職

2006年および2008年夏期に多発したヒトパレコウイルス3型 (HPeV-3) について (広島市)

山本美和子 井澤麻由 阿部勝彦
伊藤文明 笠間良雄

第12回地域保健研究会(第1分科会)

2009. 6. 1 広島市

2006年および2008年夏期に、広島市においてHPeV-3が多く検出され、全国の検出率の半数以上を占めた。その発生状況やウイルス遺伝子の解析等を行った。その結果、HPeV-3は流行時期があること、患者は生後3ヵ月までの乳幼児が多いこと、ほとんどの患者で発熱を認めるが、胃腸炎、呼吸器症状、発疹、神経系症状等さまざまな症状を呈することが分かった。

新型インフルエンザウイルスについて

阿部勝彦

第53回広島県獣医学会講演(市民公開講座)

2009. 8. 23 広島市

インフルエンザウイルスの分類、構造、増殖様式から高病原性インフルエンザと低病原性インフルエンザの遺伝子配列の違い、新型インフルエンザウイルス遺伝子の成り立ちを説明した。

また、当所での検査の流れ、検査方法、タミフル耐性遺伝子検査、現在の新型インフルエンザウイルス検出状況を図示し、参考として世界の検出状況を紹介した。

コラボスタディによるカキからのウイルス検出法の評価と課題

野田衛*1, 阿部勝彦, 伊藤文明, 山本美和子
吉澄志磨*2, 植木洋, 庄司美加*3, 大金映子*4
坂野智恵子*5, 古屋由美子*6, 足立聡*7, 滝澤剛則
中村一哉*8, 左近(田中)直美, 中田恵子*9
入谷展弘*10, 福田伸治*11, 松本知美
中川(岡本)玲子*12, 大塚有加, 山下育孝*13
西尾治*14

第98回日本食品衛生学会

2009. 10. 8~9 函館市

アミラーゼ(AM)処理を導入した高感度のカキからのウイルス検査法の有用性を評価するため、ノロウイルス(NV)陽性カキを用いて、厚生労働省が示す標準法(PEG沈殿法, 超遠心法)とAM処理を導入したPEG沈殿法, 超遠心法, 直接法の5法について、コラボスタディにより検出率、定量値を比較した。また、検査機関ごとの結果のバラツキを把握し、精度管理の資料とした。

*1: 国立医薬品食品衛生研究所

*2: 北海道立衛生研究所

*3: 宮城県保健環境センター

*4: 栃木県保健環境センター

*5: 群馬県衛生環境研究所

*6: 神奈川県衛生研究所

*7: 富山県衛生研究所

*8: 静岡県環境衛生科学研究所

*9: 大阪府立公衆衛生研究所

*10: 大阪市立環境科学研究所

*11: 広島県立総合技術研究所保健環境センター

*12: 山口県環境保健センター

*13: 愛媛県立衛生環境研究所

*14: 国立感染症研究所